

1.調査目的等

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

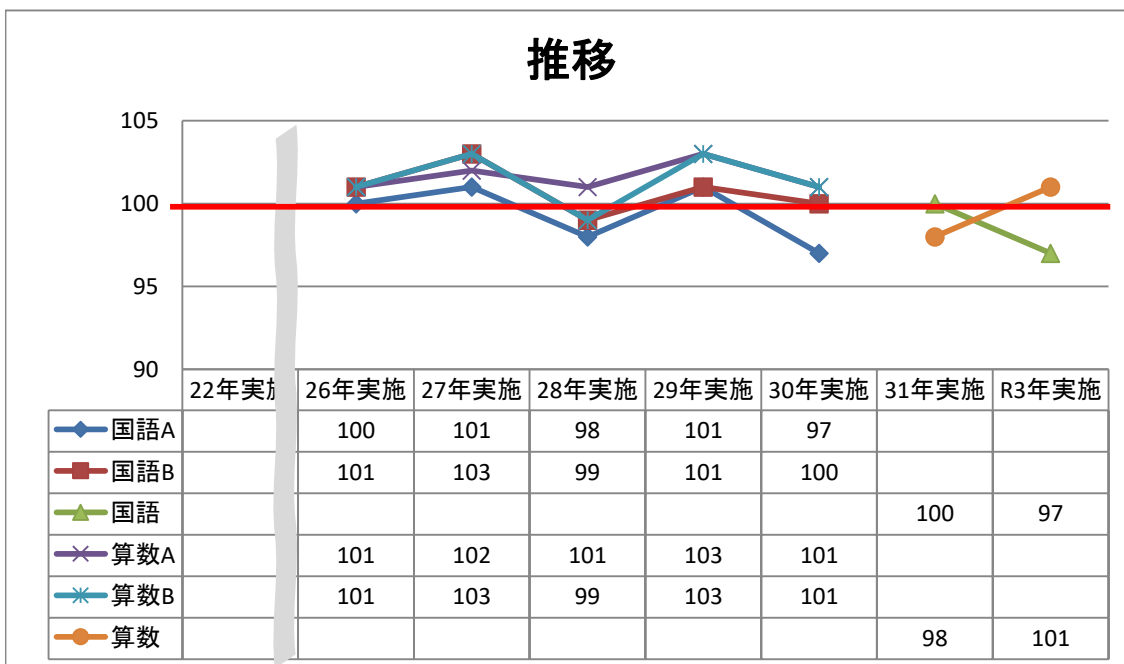
令和3年度の全国学力学習状況調査の標準化得点：国語100 算数100

3.指標に向けての取組

- ・講師招聘(教育事務所指導主事)による、「かく活動」についての理論研修の実施→研修の日常化
- ・ねらいを明確にした授業づくりの実施。(指導→評価→次の指導)
- ・重要単元の設定および、複数体制による習熟・補充学習の実施(85点未満児童の再テスト等の補充)
- ・朝の活動における、複数体制による「未来への一歩」の取組
- ・家庭との連携による学年・個に応じた家庭学習の習慣化

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	97	101
嘉麻市	95	96
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

- ・算数は「データの活用」以外は県平均を上回っていて成果がでている。これは、重要単元や、朝の算数タイムにおける複数体制での取組や、基礎基本の定着を図る「未来への一歩」の活用による成果だと考えられる。
- ・国語においては、言語事項以外、特に「書くこと」「読むこと」において県平均を大きく下回り、課題が見られる。文章全体の構成を捉え、内容を把握する力や、書かれている文章から必要な情報を取り出す力などを十分につけきれていないことが考えられる。

6.各学校における今後の取組

- ・指導方法の工夫を今後も継続し、学力基盤づくりを目指す。
(専科・補助教員の有効活用、授業形態の工夫)
- ・1単位時間にかく活動を行う場を設定し、目的・内容・方法を意識させて取り組む。
- ・授業の中で、条件を指定して書く活動を意識して取り組む。(書く活動ポイント9の活用)
- ・朝活動を計画的に実施する。(複数体制により読解など、課題となる問題に取り組む。)
- ・基礎・基本が定着していない児童に対する補充的な指導について、さらに組織的な取組を構築していく。
- ・家庭との連携による学年・個に応じた家庭学習を目指す。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。
- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。
 - 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
 - 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。
 - 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。
 - 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。
 - 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。
 - 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。